

岸田清実

議会報告

2017
1.1岸田清実県政事務所
仙台市太白区長町1-7-9-401
TEL 248-8888 FAX 248-86332016年
11月定例県議会報告

11月定例県議会は11月25日開会され、12月15日までの21日間開かれました。今議会には679億円の補正予算、大震災からの復旧・復興工事の請負契約、宮城県民の森他各種施設の指定管

理者の指定などの議案が提案されました。

知事の専決事案は直近の県議会に報告されることになっていますが、大震災時に大川小学校で犠牲になった児童遺族の提起した裁判の判決に対する控訴についても専決処分が報告されました。大川小学校では児童74人、教職員10人が津波の犠牲になり、学校管理下の児童の犠牲としては戦後最悪の事態となりました。遺族の起こした裁判で仙台地裁は学校の責任を認定し、石巻市や県に対して過失を認定した23人の遺族に損害賠償総額14億円の支払いを命じました。

大川小学校遺族訴訟控訴で
超党派から意見

石巻市は控訴を市議会の議決で決定し、県は議会に諮らず村井知事の専決処分で決定しました。県議会は議会に何の説明も無いことを問題とし、11月4日に全員協議会を開催して知事の説明を求め、知事はその場で事前説明の無かったことを謝罪しました。その後、石巻市、県の控訴を受けて遺族も控訴に踏み切りました。本会議の一般質問では会派を超えてこの問題が取り上げられ、和解への努力が指摘されました。社民党県議団は原告・被告とも控訴している状況を受け、和解への努力を求めて採決では退席・棄権しました。

福島第一原発事故由来の放射能に汚染された稲わらなどの処理をめぐって、8000ベクレル以下の汚染物を県内いっせいに一般廃棄物と混焼して処理するという提案を11月に村井知事が市町村長会議で行いました。放射能の拡散防止や焼却灰の処理など多くの課題を抱えており、本会議等で議論が行われました。



岸田清実のプロフィール

1955(昭和30)年2月、仙台市太白区郡山に生まれる。東北工大電子工高(現城南高校)を経て、1979(昭和54)年東北学院大学経済学部卒業。自治労宮城県本部、社会党県本部(現社民党県連合)に勤務。1991(平成3)年、宮城県議会に初当選、2015(平成27)年10月、5期目の当選。

建設企業委員会

11月28日に所属委員会改選後最初の委員会が開かれ、先議案件が審議されました。私は請負契約議案のうち仙台塩釜港仙台区防潮堤建設工事について質疑(右上の写真)しました。この防潮堤は蒲生干潟北西部に建設されるもので、特別保護地区の直近に整備されます。大震災の大津波によって壊滅的な被害を受けながら再生しつつある蒲生干潟に悪影響を及ぼさないか自然保護団体から懸念が示されていました。私の質疑の中で特別保護地区は避けて防潮堤が建設されること、蒲生干潟南西部に整備される河川堤との接合部はコンクリート被覆せずに土盛りのままとし、底生生物の背後地との往来に配慮した構造とすること、一部は自然の崖をそのまま生かすことなどが明らかとなりました。さらに私は今後の工事の実施に当たって自然保護団体の要望があれば真摯に対応することを求め、土木部からは「そのように対応する」との答弁がありました。

その後防潮堤工事をめぐって12月22日に蒲生を守る会と県港湾課の話し合いを私が設定し、工法などについて話し合いが行われました。

来年度予算編成方針質疑

定例議会に先立って11月11日予算特別委員会で来年度予算の編成方針に対する審議が行われ、私は社民党県議団を代表して質疑(左上の写真)を行いました。まず高齢者福祉施策を取り上げ、要支援1、2の市町村新総合事業移行に関連して①生活支援コーディネーターの十分な養成が必要②新しい介護予防・日常生活支援総合事業での事業者への報酬を事業継続にふさわしいレベルにすべきことを指摘しました。また介護保険については2018年度からの市町村第七期介護保険事業計画策定に当たって要支援1・2認定者の予防給付、新総合事業に対する利用ニーズ把握と分析を助言すべきこと、第七期計画では多床室の整備を十分盛り込むべきこと、地域医療構想における療養期の軽度者については在宅移行が前提とされていることとの整合性を図る必要があることを指摘しました。

防災豆知識

隣近所と声をかけあって

普段から隣近所との協力体制を作っておこう。特に、近所にお年寄りや小さな子どもがいる場合には、地域で声をかけあってサポートしよう。



宮城県私学振興大会



県内の私学関係者が一堂に会して、10月26日宮城県私学振興大会が行われました。宮城県による私学助成は東北では6県中5位、全国では47都道府県中37位と下位

になっています。私も私学出身の県議としてがんばらなければと感じました。

東大野田で歩道整備



太白区東大野田で旧荒川沿いに歩道の整備工事が12月10日現在進んでいます。今年2月16日に東大野田、諏訪両町内会とともに太白区役所に要望してい

たもので、旧荒川の管理用敷地を利用して歩道が、作られます。

広瀬川に遮水扉



広瀬橋の太白区側たもとに河原に降りる入口がありますが、この部分だけ遮水壁が切れています。一昨年9月の豪雨であとわずかこの部分まで水位が上がるところでした。地元の要望を受けて遮水扉の設置を県に要望していましたが、12月2日現在工事が進んでいます。

岸田清実のあしあと

仙台バイパスに横断歩道



太白区郡山7丁目付近の仙台バイパス交差点に12月5日横断歩道が新設されました。この交差点では3か所に横断歩道が設置されていましたが、残る1か所がないため、場合によっては向かい側に行くのにコの字に渡らなければなりません。地元の要望を受けて県警に申し入れていましたが、接続道路の改修が終わり、残る場所に横断歩道が設置されました。

放射能汚染物堆肥化実験 栗原視察



東日本大震災時の福島第一原発事故による放射能のため県内各地に稲わらや牧草などが汚染され未処理のまま保管されています。栗原市では堆肥化により処理する道を探っており、10月28日実証実験現場を視察しました。

二口林道に駐車場整備等要望



秋保町と山形市を結ぶ二口林道は来年度に全区間舗装される予定ですが、そうなれば観光客等の通行増が予想されます。沿線で一番の観光スポットは磐司岩であり、駐車場確保等が大きな課題になることから、10月28日秋保町の大場長袋連合町内会長とともに県観光課に要望しました。

労組からの要望に県警が回答



仙台市交通労組から交通規制や信号機の運用改善などを要望していましたが、11月29日にその回答を受けました。同労組

の役員と説明を聞くとともに、内容について意見交換しました。

退職者会と県へ要望



各労組 OB が加入する退職者会の連合体である宮城高退連合の役員の方々と介護保険制度や医療制度に関する県へ要望を11月14日に行いました。

イノシシ対策



秋保町長袋で行われたイノシシ対策のための防護柵設置作業現場を11月18日に訪れました。資材は仙台市から無料で配布され、地域の皆さんの共同作業で設置しています。耕作放棄地の増加などによりイノシシ被害が拡大しており、一層の対策が必要と感じました。

恵和町付近の横断歩道へ信号要望



都市計画道路長町・八木山線の片側2車線ある道路の恵和町付近に信号の無い横断歩道があり、11月末に事故が発生しました。以前にも信号の要望を出していましたが、事故を受けて早急な信号設置を改めて要望しました。

地域防災特別委員長に



県議会閉会日の12月15日に5つの特別委員会が設置され、地域防災調査特別委員会の委員長に就任しました。この委員会は自然災害から命を守る防災対策の検討がテーマになっています。